

# 大阪市の懲戒処分を許さない 6・5集会

## ムチャでっせ！入れ墨調査・職員アンケート

六月五日、西区民センターホールに於いて、南大阪平和人権連帯会議と懲戒処分を許さない南大阪の会が主催する上記集会が盛大に開催されました。

当日は、官民の仲間、市職OBの皆さん等々、三〇〇人を超す参加者でした。

入れ墨アンケートを拒否して懲戒処分を受けた大阪市職員を激励し、人権を蹂躪する暴言を繰り返す橋下市長を糾弾すると共に、不当処分の撤回と慰安婦発言を始め、市長責任を徹底的に追及し闘っていくことが確認されました。以下、決議文を紹介します。

### 橋下市長の「慰安婦」発言など 「暴走」を糾弾する決議

橋下大阪市長は、大阪市が行った「入れ墨に関する調査」、いわゆる《入れ墨アンケート》への回答を拒否したとして、昨年八月二十八日に調査回答拒否者六名に対し、職務命令違反としての「戒告」処分を行った。しかし、個人の《入れ墨》

は憲法で保障された《表現の自由》の範疇であり、大阪市が、一人一人の職員にアンケート形式で、入れ墨をしているかどうかを問うことは、明らかに憲法違反であり、著しい人権侵害である。橋下市長は就任以来、一貫して労働組合を敵視

し、組合事務所退去、便宜供与の廃止、団交拒否などを繰り返して労働組合との対立を激化させた。さらには「職員基本条例」や「政治活動規制条例」など、憲法違反の条例を制定してきた。こうした政策の狙いは、市長や当局に従順な職員づくり、物言わぬ職員づくりにあった。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

経過報告をする中村・南大阪の会事務局長



圧倒的人気を背景に強気の政策と言動で押し通してきた橋下市長にも、ここにきてほころびが見え始めた。今年三月二十五日、大阪府労働委員会は、橋下市長が強行した「労使関係に関する職員アンケート調査」を不当労働行為であると認定し、

市側に、市労連に謝罪文（誓約書）を手交するよう命じた。しかし、橋下市長はいったん「大変申し訳ない。異議はない」として労働組合に謝罪の意思を表明したものの、文字通り朝令暮改的に府労委の認定を受け入れず、組合側の発言に不満を抱いたとして、「謝罪」の姿勢を一転させて対抗措置を取る考えを明らかにし、四月八日に不当労働行為と認定した大阪府労働委員会の救済命令を不服として、中央労働委員会に再審査を申し立てた。また、五月十三日には、橋下市長は、「『慰安婦制度』は必要だった」、

「米軍司令官に風俗業の活用を進言した」などという橋下市長の人格を表すような人権を冒瀆する発言を行い、日本国内のみならず韓国・中国をはじめ世界中から抗議・非難を浴びせられている。

橋下市長は、韓国・中国などアジアの国々と沖縄県の人々に謝罪することなく、アメリカには「沖縄の米軍に風俗業の活用を勧めた」発言の謝罪として、「国際感覚が足りなかった」と釈明したが、アメリカ国務省からは「異様、不快または非難すべき」発言として認識されているように、アメリカ訪問も断念せざるをえなかった。かつ、



人権の根本的認識が欠けていることに気付くこともできないまま、「慰安婦」発言などについては責任をメディアなどに転嫁して、「大誤報」とまで言うに開き直っている。五月三〇日には、ノーベル平和賞受賞者の女性五

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

人が、「戦時における『性の奴隷』は、今日では戦争犯罪と規定されている」と指摘し、「橋下市長の発言を最も強い言葉で非難する」とする声明を発し、六月二日には、パン・ギムン国連事務総長からも、「国際社会は納得しない」と厳しく批判されたように、橋下市長の発言に国際的な厳しい批判がわき起こっている。

さらに、六月二、三日に、松井大阪府知事（日本維新の会幹事長）と橋下市長（日本維新の会共同代表）は、六月六日の菅官房長官との会談の際に、「八尾飛行場を米軍

輸送機オスプレイの訓練の一部に利用」するよう、八尾市長を無視して、表明するとのことである。しかし、これが彼らの言う「沖縄の負担軽減」に結びつくことなどありえず、従来の訓練地域に加えて、「空飛ぶ恥」と言われるほど事故を多発し



てきた極めて危険な「欠格ヘリ」を大阪に招致することによって、新たに大阪府民の生命や財産を危険にさらすだけである。何ら熟慮することなく、思いつきだけの発言による混乱の責任は極めて重い。



このような事態に貶め

た橋下市長は、政治家や首長としての資質がないことは明らかであり、一刻も早く党首と首長を辞任しなければならない。

私たちは、違法・不当な行為を繰り返し、人権を蹂躪する「発言」と「暴言」を繰り返す、橋下市長の「暴走」を糾弾するとともに、不当処分の撤回と「慰安婦」発言をはじめとする市長責任を追及し断固として闘うことを決議する。

二〇一三年六月五日

大阪市の懲戒処分を

許さない六・五集会

参加者一同

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！